

2018/06/03

## 「罪が赦されるとは」～その3つの意味～

### ■ 罪について

聖書が教える罪には、神が問う罪と問わない罪の2種類があります。この二つを便宜上、罪A・罪Bと呼ぶことにします。この二つは、日本語では区別が付きませんが、原語ではおおむね単数形と複数形に分かれて表されています。

「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」(ヨハネ 16:8-9)

「その方」とは、聖霊のことです。この世は、罪・義・さばきについて誤解していますが、聖霊はその間違いを教えてください。それは、聖書が教える罪とは、神を信じないことだということです。私たちは、罪というと、盗み、殺人、姦淫、嘘など、倫理的な罪を思い浮かべます。しかし、神が問う罪とは、神を信じないことであり、聖書ではほとんどの場合、単数形で表されています。もちろん、「肉の行い」と呼ばれる倫理的な罪も罪ですが、この罪については、神は「問わない」と言っておられます。

「だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」

(ヨハネ 12:47)

「神を信じない罪」のことを、「聖霊を汚す罪」という呼び方もします。というのは、神を信じていることができるのは聖霊の働きであり、神を信じないということは、私たちのうちに働く聖霊の呼びかけを拒否することだからです。

多くの方は、悪いことをしたら、神に罪を問われて罰せられるのではないかと思っていますが、そうではありません。神が問うのは、神を信じるかどうかだけです。

### ■ 神が問う罪が赦されるとは

「御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。」(ヨハネ 3:18)

「さばかれる」と訳されている言葉「クリノー」は、本来「分ける」「引き離す」という意味の言葉です。これは、悪魔がアダムとエバを欺き、罪を犯させたことによって人に死が入ったことを表しています。死とは、神との結びつきを失うことです。つまり、人は皆、神か

ら引き離された状態にあるということです。永遠なる神から引き離されたことによって、私たちは有限になりました。死とは、神と分けられた状態のことで、これが「さばかれている」状態です。イエス様は、私たちは皆死んでいると言われました。

「すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。」(I コリント 15:22)

神と分けられた状態の中で生まれてきた私たちは、死んだ者として生まれてきたということです。神と結びつきのない有限の世界は、死んでいる状態です。神との結びつきがない私たちは、生きているようでも死んでいるのです。

死んでいる者に何か罰を与えて意味があるでしょうか。ありません。死人に対して、私たちは何もすることはできません。しかし、神にできることが、一つだけあります。それは、生き返らせることです。

イエス様はそのことを教えるために、死んだラザロをよみがえらせました。そして、「私は死人を生き返らせることができるから、この手につかまりなさい」と言って、死人である私たちに手を差し伸べているのです。信じるとは、この手をつかむことです。

もし、私たちがその御手を拒否して、つかむことをしなければ、死んだ状態のままです。神が問う罪は、神の御手につかまるかどうか、神の呼びかけを聞いて応答するかどうか、この一つだけです。これが信じるということです。これを拒否することを罪 A と呼びます。

私たちは、倫理的に悪いことをすれば、罪に問われると勘違いしています。言葉のイメージで勝手に想像するために、このような勘違いが起こってしまうのですが、そんなことはありません。

あなたが神を信じているなら、あなたはすでに神の御手につかまっています。罪の赦しの一つ目の意味は、この罪 A が赦されたということなのです。つまり、あなたは神が差し出す御手にしがみついたので、神を信じない、「不信仰」という罪は赦されました。

「あなたの罪は赦されている」という一つ目の意味は、罪 A が赦され、あなたは神との結びつきを取り戻したということです。それは、死んでいたのに、生きるものとなったということです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。」(ヨハネ 5:24-25)

罪 A を悔いて、神を信じる者は、有限から解放されて、永遠のいのちを持ち、神から分離されることはなく、死からいのちに移っています。これが、罪が赦された状態です。

すでにさばかかれていて、死んだ状態にある私たちが、神の声を聞く時、それは今です。神の声を聞いて応答し、生きるものになったということが、罪 A が投げ捨てられたということ

であり、一度神との結びつきを回復したら、二度とさばきにあうことはありません。

救われた者は、どんなに神につぶやこうとも、悪い行いをしようとも、イエス・キリストを否定することはできません。もう二度と罪 A を犯すことはできないのです。もし、本気で神を否定できるなら、その人は最初から信じていなかったのです。ですから、一度救われた者の救いは取り消されることはないのです。

このことをパウロは、次のように言っています。

「死んでしまった者は、罪から解放されているのです。」（ローマ 6:7）

罪は2種類あることを知らずに、この御言葉の意味を誤解し、クリスチャンになったら悪いことをしなくなるのだと考えて、悪いことをする自分は救われていないのかと心配するクリスチャンが大勢います。しかし、私たちは、イエス様を信じない罪からは解放されていて、二度とさばきにあうことはありません。

「というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。」（ローマ 6:14）

「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」

（ローマ 8:38-39）

愛とは結合を意味する言葉です。神と結び合わされたら、決して離されることはないのです。これが、罪 A が赦されたということです。

イエス様は、誰の心にも呼びかけておられますから、ただ「信じます」と告白さえすれば、罪 A は赦され、あなたはそのまま天国に行けます。

#### ■ 神が問わない罪の赦し

さて、罪にはもう一つ、倫理的な行いの罪（罪 B）があります。通常、私たちが思い浮かべるほうの罪です。神はこの罪を問わないのですが、私たちに苦しめています。人を愛せなかったり、神の御心ではない肉の行いに走ったりすると、私たちは、良心が痛み、罪責感に苦しみます。この罪の原因は、不安にあります。

この不安の原因は、聖書しか説明できません。それは、神の愛が見えないことです。神との結びつきを失い、有限の世界に生きているため、神との結びつきを回復しても、永遠なる神が見えず、神に愛されている自分が見えないので不安なのです。私たちはこの不安から逃れたくて、どうしても見える安心を求めます。それが肉の行いという倫理的な罪を引き起こしているのです。

ですから、私たちが倫理的な罪を犯してしまうのは、私たちが有限の世界に生きていると

いう構造的な問題で、避けられないことなのです。しかし、神は、不安を抱えて悪を行ない、ますます苦しんでいる私たちを、なんとしてもいやしたいと願っておられます。もし、倫理的な罪が個人的な問題ならば、罰することもあるでしょうが、個人的な問題ではなく、構造的な問題であるため、私たちにはどうしようもありません。ですから、神は、これをいやそうと考えるのです。

私たちが不安を抱くのは、外部から入り込んだ死によるものです。だから、病気という概念になります。体の病気も有限になったために生じた現象で、体の病気も、心の病気も、罪も、すべては悪魔の仕業による死という病原体が原因です。

ですから、「罪 B を赦す」とは、「いやす」ということになります。罪の赦しには、不安を取り除き、罪をいやすという面が含まれるのです。

神を信じる、信じないという罪 A は、罪の意識は生じないため、日常の中で自分を苦しめることはありません。しかし、罪 B は、罪の意識を生じさせ、私たちに苦しめます。しかし、それは、神の目からすれば、神と引き離された死という不安が原因の病気です。死のとげは罪であることを神は知っているのです、なんとかして癒したい、助けたいと願って、神はその病気をいやすのです。これを罪が赦されたということです。

「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも（その結果）全人類が罪を犯した（犯すようになった）からです。」（ローマ 5:12）

「それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。」（ローマ 5:21）

死は私たちが牛耳るようになりました。その死のもたらす不安が私たちの罪の原因です。罪の赦しを意味する「アピエーミ」という言葉は、本来の意味は「投げ捨てる」で、病気が癒される場合（熱が引く等）にも使われます。罪の赦し、すなわち、罪の癒しに対しては、恐れや不安を取り除くという意味で使われています。

では、罪の赦しは不安を取り除くことであることを分かりやすく教えた出来事（マタイ 2 章）を見ていきましょう。

ある時、中風という病で寝たきりの人が、イエス様が来られることを聞いて、いやしてもらうために、友人達にかつがれて、イエス様のところに連れてきてもらいました。ところが、戸口まで人がいっぱい、とても中にはいることができません。そこで、友人達は、屋根をはがし、そこからロープでイエス様の目の前に寝床をつり降ろしました。この時、イエス様は、彼らの信仰を見て、「子よ。あなたの罪は赦されました。」（マルコ 2:5）と言われました。この人が本当に苦しんでいた病気では、中風ではなく、罪という病気だったのです。

私たちは皆罪人で、罪という病気に苦しんでいます。それは、神の愛が見えないという病気です。そのためにイエス様は、その不安を取り除き、どれだけあなたを愛しているかを示

して、いやしてくださるのです。これが罪の赦しの二番目の意味です。

罪が赦されるとは、罰がなくなるという意味ではありません。罰など初めからないのですから。神が問う罪は神を信じるかどうかだけであり、他の罪に対しては、神との結びつきがない不安から生じているため、癒しの対象です。イエス様は、中風の人を癒した後、次のように言われました。

「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」(マルコ 2:17)

罪人を癒すのも、病人を癒すのも、神の目からすると同じなのです。つまり、罪が赦されたとは、罰が帳消しになったという意味ではなく、あなたの不安を取り除いたという意味なのです。

「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(I ペテロ 2:24)

罪は病気ですから、罪が赦されるとは、病が癒されるということです。イエス様の十字架によって癒されるのです。イザヤ書では、イエス・キリストは、私たちの病を背負ったと書かれています。

中風の方は、歩けるようになりたいと願っていやしを求めました。しかし、彼の本当の病気は罪でした。神は彼の病を完全に癒したいと願われました。体の病気はいやされても、やがて朽ちてしまいます。しかし、罪は癒されれば癒されるほど、神への愛が増し加わり、神との関係はさらに成長していきます。それが、罪の赦しの二番目の意味です。このいやしを体験したければ、自分のつらさを神の前に告白しましょう。

「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」(I ヨハネ 1:9)

すべての悪とは、死の恐怖による不安を指します。神はそこから私たちを解放してくれます。これが十字架のいやしです。それを体験したければ、神に自分の症状を告白しましょう。そうすれば平安を得ることができます。

#### ■ 罪の事実が消滅する

「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」(イザヤ 1:18)

いくら神に罪を赦されても、罪の記憶は残り、苦しみが残るものです。しかし、神は、私たちの罪を白紙にすると言っておられるのです。

私たちの記憶は、肉の体と魂に記憶されます。肉の体に記憶されるのは、この世の出来事です。様々な罪も記憶され、私たちの心を責めます。ただ、これは罪の抑止力にもなり得るので、悪い面ばかりとも言えないのですが。

一方の魂に残る記憶は、神を信頼する信仰の記憶で、どのように神を愛し人を愛したのかという記憶です。魂に残るのはこれだけで、魂には良い記憶しか残らないのです。聖書に「いつまでも残るのは、信仰と希望と愛」とありますが、これが魂に残る記憶です。肉体の死が訪れて復活する時、私たちは、肉の体から、朽ちない御霊の体に着替えさせられます。その時、私たちから肉の記憶は消え、残るのは、信仰と希望と愛という、神を愛した記憶だけになります。これが私たちの生まれ変わる姿です。

「あなたの罪が赦された」とイエス様が言われる時、イエス様はその罪が完全になくなることを知っておられます。だからイエス様は、どんな罪人をも愛し、心配いらないとされたのです。新しい体に生まれ変わり、新しく生きるようにされたからです。そこには、もう悲しみはなく、神を愛した記憶だけが残ります。

「彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」すると、御座に着いておられる方が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」(黙示録 21:4-5)

すべてが新しくなるということは、罪は消されるから、過去を見る必要はなく、何も心配することはないということです。残るものは、信仰と希望と愛だけです。ですから、何も心配せず、安心して神を信頼する心を育てましょう。

これが神の福音であり、罪の赦しの三番目の意味です。罪は、肉の体と共に滅び、消えてなくなってしまう。あなたの良いものしか残らないのですから、あなたはもう罪に苦しむ必要はありません。